

千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第16週 (4/19-4/25) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		16週	15週	14週	13週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	17	17	17	17
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	27	27	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	4/19-4/25	4/12-4/18	4/5-4/11	3/29-4/4	4/12-4/18
			16週	15週	14週	13週	15週
小児科	RSウイルス感染症	↓	2 0.12	4 0.24	0 0.00	0 0.00	7 0.05
	咽頭結膜熱	○	5 0.29	1 0.06	0 0.00	1 0.06	8 0.06
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		5 0.29	5 0.29	13 0.76	2 0.12	70 0.53
	感染性胃腸炎		27 1.59	34 2.00	16 0.94	29 1.71	281 2.11
	水痘		1 0.06	2 0.12	6 0.35	2 0.12	20 0.15
	手足口病		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	6 0.05
	伝染性紅斑		0 0.00	2 0.12	0 0.00	1 0.06	2 0.02
	突発性発しん		12 0.71	11 0.65	16 0.94	7 0.41	61 0.46
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性耳下腺炎		1 0.06	4 0.24	0 0.00	0 0.00	8 0.06
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	1 0.20	1 0.20	1 0.20	8 0.24
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(147件)

※新型コロナウイルス感染症138件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	病原体等の検出等	腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の分離・同定
結核	男性	60歳代	病原体の分離・同定等		女性	20歳代	及びベロ毒素の確認
結核	男性	70歳代	病原体等の検出等	レジオネラ症	男性	80歳代	病原体抗原の検出
結核	女性	10歳未満	ツベルクリン反応	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	50歳代	病原体の検出等	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~80歳代	病原体遺伝子の検出等

・第16週は、結核5件(49)、腸管出血性大腸菌感染症2件(7)、レジオネラ症1件(2)、梅毒1件(16)、新型コロナウイルス感染症138件(3831)の発生届があった。

※ ()内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第16週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より減少した。過去10年の同時期と比べると平均レベル。

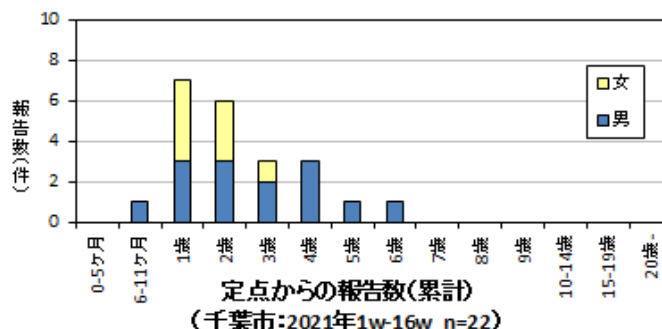
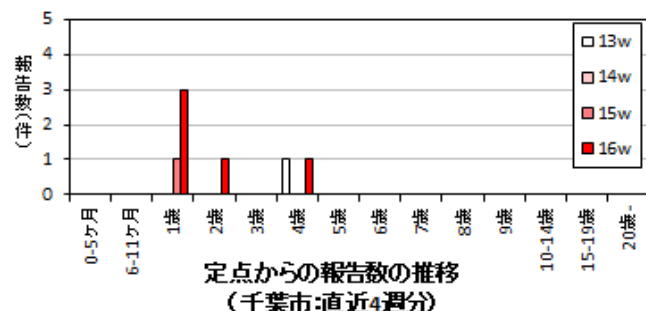
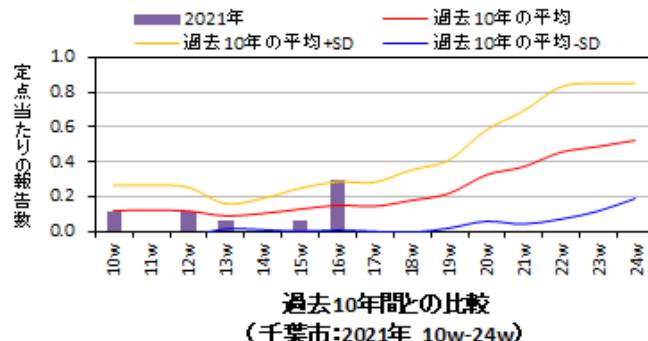
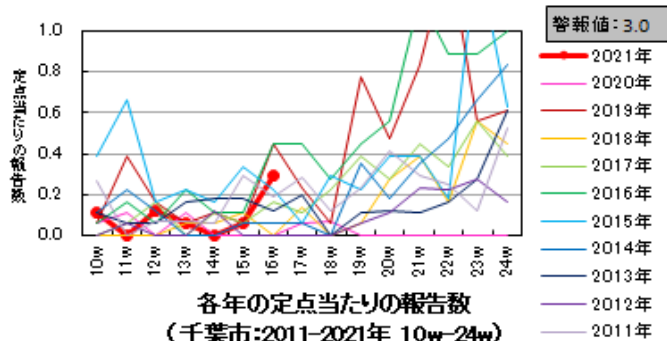
<咽頭結膜熱> 前週より増加し、過去10年の同時期と比べると多くなった。

■ トピック ■

<咽頭結膜熱>

全国レベルの第15週は0.14で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、新潟県、鹿児島県、福井県の順で多く報告されています。千葉県は0.06で全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第16週は、前週より増加し0.29となり、過去10年の同時期と比べると多くなりました。例年の発生動向によるとこれから年間で最も多くなる時期となっていることから、今後の発生動向には注意が必要です。区別の発生状況は若葉区(2.0)で最多で、同区の1歳で多く発生報告がありました。2021年第1週から第16週までの累積報告数は22件で、男性が63.6%(14件)、女性が36.4%(8件)で、年齢階級別では1歳(31.8%:7件)、2歳(27.3%:6件)、3歳及び4歳(共に13.6%:3件)の順で多くなっています。

咽頭結膜熱は、アデノウイルスの感染による、発熱・咽頭炎及び結膜炎を主症状とする小児の急性ウイルス感染症です。発生は年間を通じてみられますが、通常6月頃から徐々に流行し始め、7～8月にピークとなります。感染経路は飛沫感染又は手指を介した接触感染で、プールでの接触やタオルの共用により感染することもあるので、プール熱と呼ばれることもあります。予防方法としては、感染者との密接な接触を避ける(タオルの共用はしない)、流行時にはうがいや流水と石けんで手指を良く洗う、衛生を保つためプールから上がったときはシャワーを浴びうがいをすることが重要です。



<RSウイルス感染症>

全国レベルの発生動向は、年頭から例年とは逆の動きとなり増加し続け、第10週で過去10年の同時期と比べ最多となり、その後も増加を続けています。第15週は前週より一段と増加し1.12となり、流行開始の目安とされる1.0を上回りました。過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。都道府県別では、佐賀県、宮崎県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は0.05で全国レベルと比べると少なくなっています。主に九州地方での流行となっていますが、今後の発生動向には注意が必要です。千葉市の第16週は、前週より減少し0.12となりましたが、過去10年の同時期と比べると平均レベルとなっています。区別の発生状況は、前週に報告があった緑区とは別に新たに稲毛区と美浜区でそれぞれ1件ずつ発生報告がありました。2021年の累積報告数は6件となり、男女は同数で、年齢階級別では1歳(50.0%)、2歳(33.3%:2件)、1歳(16.7%:1件)の順で多くなっています。

